

こうじ
工事の
げんば
現場より

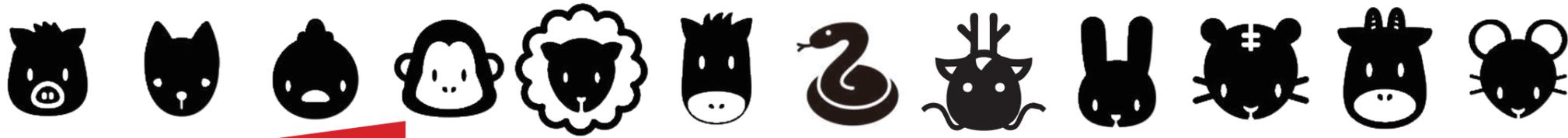
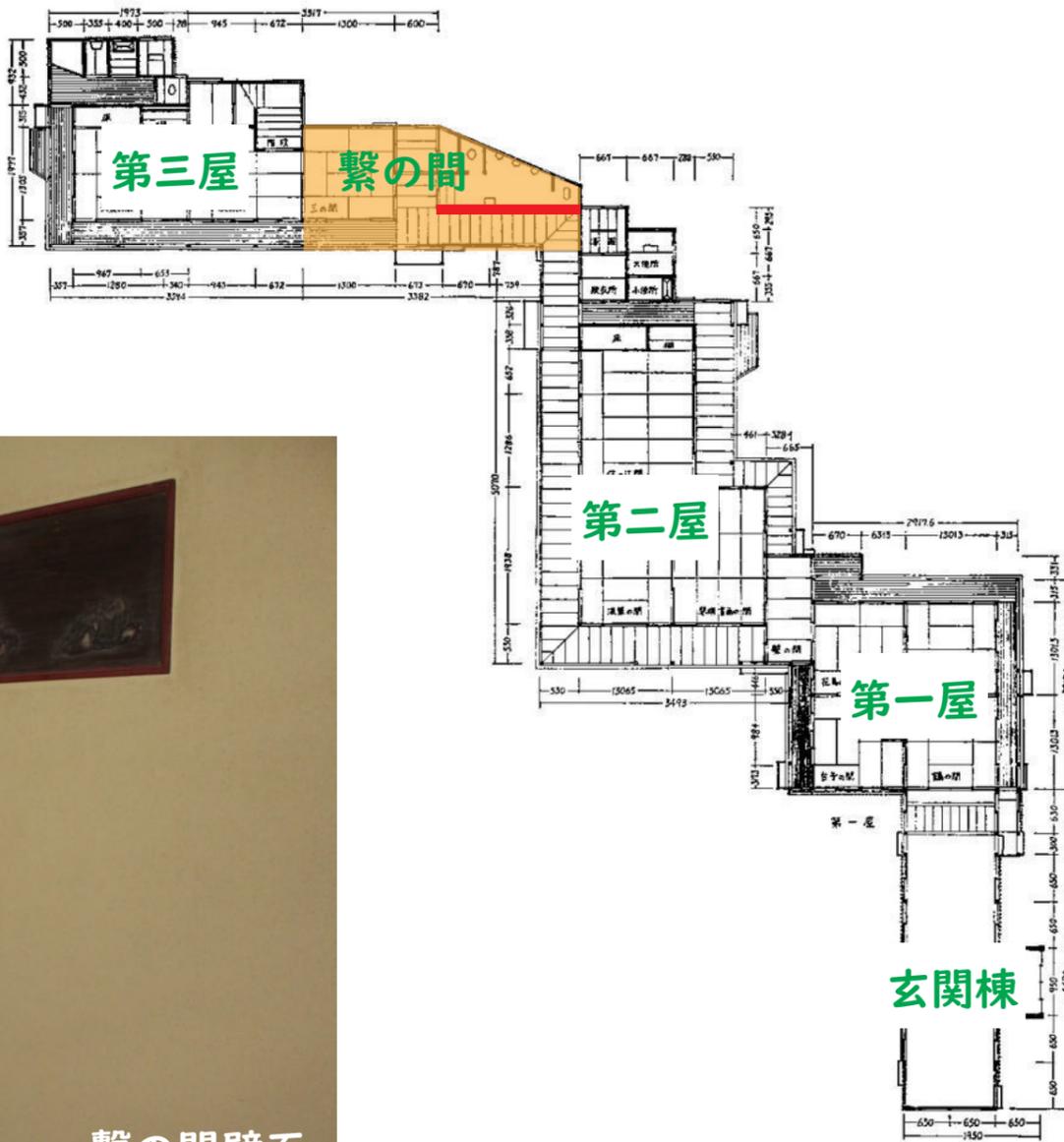
こうじ げんば りんしゅんかく とくべつしゅっちょう
工事現場の臨春閣から特別出張!

調査研究 vol.1

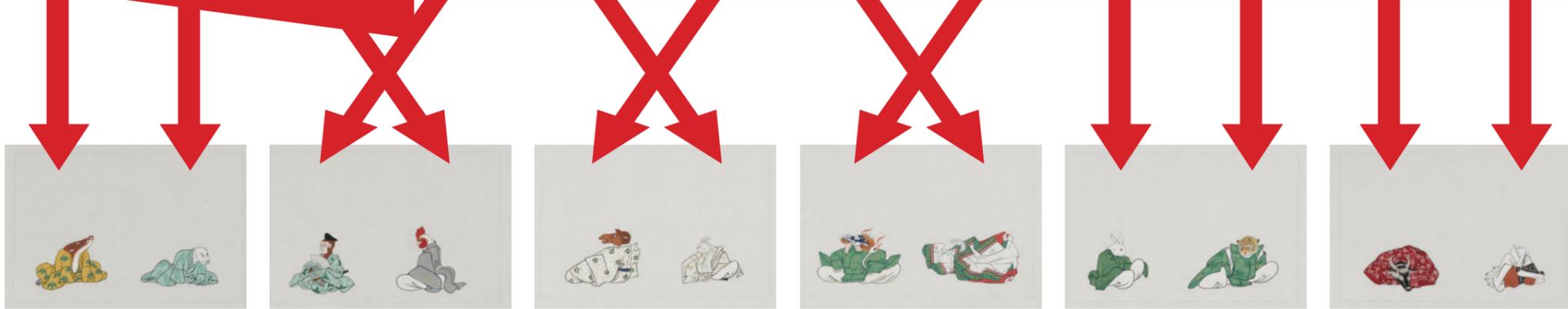


つなぎ ま いたえ じゅうにし ずがく かん こうさつ
繋の間 「板絵十二支図額」に関する考察

だいにおく だいさんおく む つなぎ ま
第二屋から第三屋へ向かう「繋の間」の
へきめん じだいしやうぞく じゅうにし
壁面には、時代装束をまとった十二支が
いた えが いたえ じゅうにし ずがく おさ
板に描かれた「板絵十二支図額」が収め
られています。一枚につき2頭(匹)ずつ、
けい まい いたえ じゅんじよ なぞ
計6枚の板絵ですが、その順序には謎め
いたものがあります。



亥 戌 酉 申 未 午 巳 辰 卯 寅 丑 子



「板絵十二支図額」色見取図



「板絵十二支図額」のオリジナル

工事の げんば 現場より

こうじ げんば りんしゅんかく とくべつしゅっちょう
工事現場の臨春閣から特別出張！

調査研究 vol.1



つなぎ ま いたえ じゅうにし ずがく かん こうさつ 繋の間「板絵十二支図額」に関する考察

じゅうにるいまきもの るいじせい ◆十二類巻物※との類似性

いたえ じゅうにし
板絵の十二支に
似ている！



十二類巻物（国立国会図書館デジタルコレクション）

どうもと けしよぞう おるまちゅうき せいさく じゅうにるいまき ふうしやう どういつしよめい じゅうにるいまきもの げんぞん さいこ
※堂本家所蔵の室町中期の制作とみられる『十二類絵巻』（通称。統一書名は「十二類巻物」）が現存最古とされ、
じゅうようぶんかざい してい じゅうにるいあつせん えまき じゅうにるいことば いしやうるいけい かくにん
重要文化財に指定されています。『十二類合戦絵巻』『十二類絵詞』などの異称類型のものが確認されています。

STORY

じゅうごや よる じゅうにし けもの うたあわせ わ か ぎこう きそ もよお おこな さい はんじゃ しんぱん しか なの
十五夜の夜に十二支の獣たちが歌合（和歌の技巧を競う催し）を行った際、その判者（審判）に鹿が名乗
りを上げました。歌合は大いに盛り上がり、終了後の宴会で鹿は十二支にたいそうもてなされました。

じゅうにし つぎ かい しか はんじゃ いらい たいちやう ぐず しか じたい とき ぜんかい
十二支たちは次の会でも鹿に判者を依頼しましたが、体調を崩した鹿はこれを辞退します。この時、前回
鹿についてきた狸が、以前の鹿の接遇をうらやましく思い、代わりに判者をやることを申し出ます。しかし
十二支に散々に馬鹿にされて追い払われてしまいました。

このことを怨んだ狸は、仲間の狐、烏、ふくろう、猫、いたちなどを集めて、十二支の動物たちに戦を仕
かけます。ところが、十二支の動物たちはとても強く、狸側はやっつけられてしまいます。そこで、狸は鳶
の勧めで夜襲を仕掛け、一度は勝つのですが、体勢を立て直した十二支軍に敗れてしまいます。

たぬき おに ば じゅうにし おどろ いぬ みやぶ に よ おじやう さと
狸は鬼に化けて十二支を驚かそうとしますが、犬に見破られて逃げてしまいます。そして世の無常を悟り、
さいし わか しゅっけ ぼう あたま そ ぼう
妻子と別れ出家し、えらいお坊さんについて頭を剃り、お坊さんになってしまいました。

こうじ
工事の
げんば
現場より

こうじ げんば りんしゅんかく とくべつしゅっちょう
工事現場の臨春閣から特別出張！

調査研究 vol.1



つなぎ ま いたえ じゅうにし ずがく かん こうさつ
繋の間「板絵十二支図額」に関する考察

じゅうにるいまきもの るいじせい じゅうにし じゅんばん かん こうさつ
◆十二類巻物との類似性 - 十二支の順番に関する考察

じゅうにるい えまき ちゅう じゅうにし うたあわせ ばめん じゅうにし
「十二類絵巻」のストーリー中には、十二支の歌合の場面があり、十二支
それぞれが歌を出し競い合うこととなります。その順序は次のとおりです。



1 番目
いぬ 戌 対 たつ 辰
2 番目
い 亥 対 み 巳
(いのしし) (へび)



3 番目
ね 子 対 うま 午
(ねずみ)
4 番目
うし 丑 対 ひつじ 未
(うし) (ひつじ)



5 番目
とら 寅 対 さる 申
6 番目
う 卯 対 とり 酉
(うさぎ) (とり)



工事の げんば 現場より

こうじ げんば りんしゅんかく とくべつしゅっちょう
工事現場の臨春閣から特別出張!

調査研究 vol.1



つなぎ ま いたえ じゅうにし ずがく かん こうさつ 繋の間 「板絵十二支図額」に関する考察

◆十二類巻物との類似性 - 「臨春閣」における意味合い

「板絵十二支図額」が「十二類巻物」に関連したものであるとして、「臨春閣」の繋の間に設けられていることの意味合いを新たに考察しました。

KEY WORD ①

じゅうごや 十五夜

「十五夜」に開催された十二支の歌合 × 十五夜の月を眺めることに相応しい場として設けられた臨春閣



「十二類巻物」における十五夜の歌合の場面



臨春閣より眺める十五夜の月と旧燈明寺三重塔

KEY WORD ②

うた 歌

動物が貴族や僧侶の装束を着した姿で表されているのは、おそらく、歌仙絵の伝統を下敷きにしていると思われます。
第二屋琴棋書画の間・浪華の間の欄間に掲げられた和歌（浪華十詠）、第三屋2階「村雨の間」に掲げられた百人一首を「繋ぐ」場所に、歌仙になぞらえられた十二支が位置するのは、意味がありそうです。
藤原定家が百人一首の百首の歌を選んだ場所が「時雨亭」だったことにちなみ「村雨の間」という名前が名づけられたというのも関連があるかもしれません。

